
しろはく活動記録

古地図と城の泉 第19号

常陸国真壁郡四保城跡調査報告書 寛政年間甲州流古城調査絵図目録 ペルリ提督琉球中城城実測公開 吉田初三郎原画原寸複製頒布

平成27年6月1日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

城郭現地調査報告及び資料調査

博物館事業報告

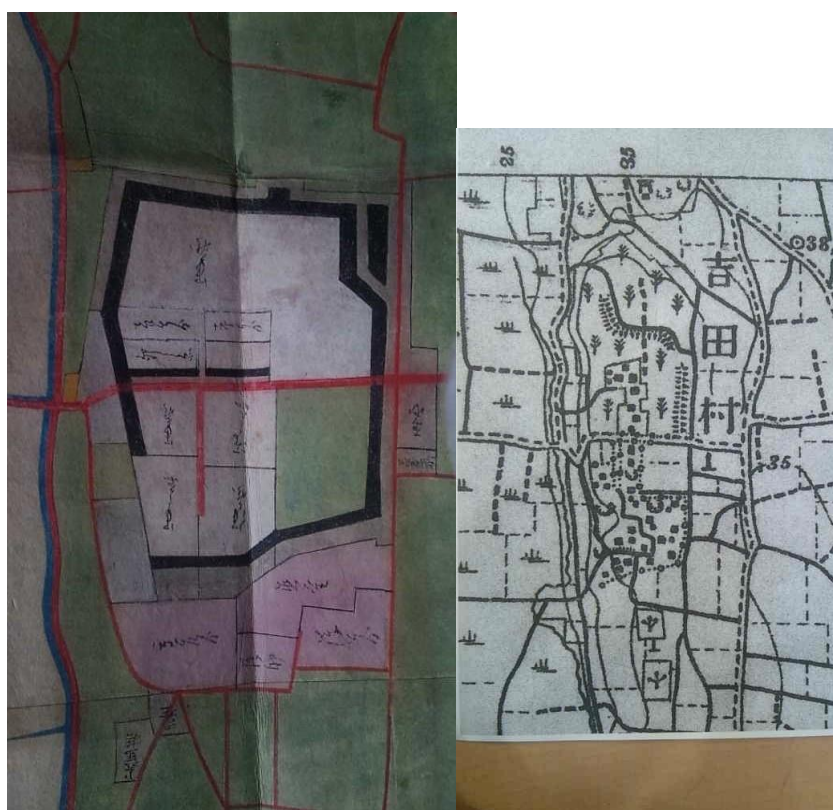
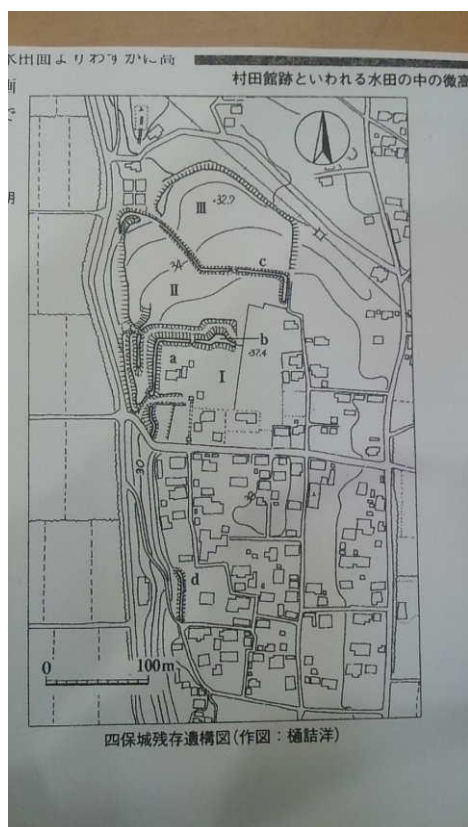
1・常陸国真壁郡吉田邑縮図、筑西市旧明野町の四保城跡調査報告書。

前号で真壁陣屋図発見と伝えたが、4月12日現地訪問、歴史民俗資料館展示桜川市所蔵御陣屋絵図と構造が微妙に違うことから、再調査した結果。表題の『常陸国真壁郡吉田邑縮図』の吉田村は明治22年4月1日町村制施行により、村田村となり、さらに、昭和29年11月3日合併して明野村、さらに平成17年3月28日合併して筑西市が発足。同年、桜川市となった真壁町ではないことが判明した。同時に真壁郡も消滅している。真壁郡の陣屋跡ということで、真壁陣屋としたが、別物であった。手元にある常陸国絵図には真壁郡に吉田村の記載がある。さらに、陸地測量部の第1師管地方迅速測図を調べたところ、古河及び関宿近傍第2号下妻町図幅に含まれ、東北角に吉田村の記載があり、絵図と地形が一致した。筑西市教育委員会文化課に確認したところ、四保城ではないかとのことで、調べたところ、現状は平成18年の『図説茨城の城郭』に樋詰洋氏の残存遺構図があり、絵図の描かれる北櫓台、北土塁、北空堀、西土塁、西空堀が残存し、北二曲輪、北三曲輪の地割に北二曲輪の土塁が残存していることが判明した。特長的な遺構である東北角の二重土塁空堀や東、西土塁、空堀は壊滅していた、明治16年の第一師管地方迅速測図下妻町では第2曲輪の東土塁が現存している。本図は壊滅する前の江戸期の四保城跡を知る唯一の絵図である。

その後今日4月29日筑西市教育委員会文化課から筑西市の前の明野町誌の附図として、四保城跡復原実測図をいただいた。図面だけでは復原、現状、年代がわからないため、判別できないが、一郭の中を仕切る堀が描かれる等、現状図としては樋詰洋氏の縄張図がより兵法的に城を抑えてい



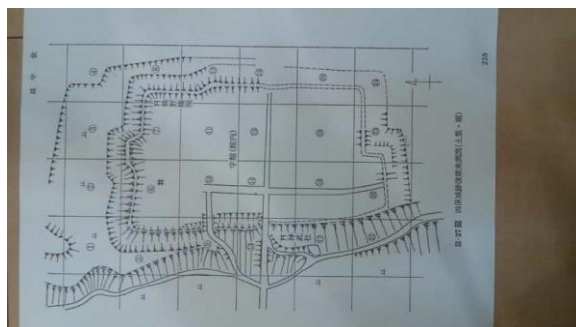
常陸国真壁郡吉田邑縮図 上が南、左、東側に四保城跡が描かれる。黒い石垣風は土塁。



図説茨城の城郭 樋詰洋氏図

吉田邑縮図古城部分天地揃

第一師管迅速測図下妻町部分

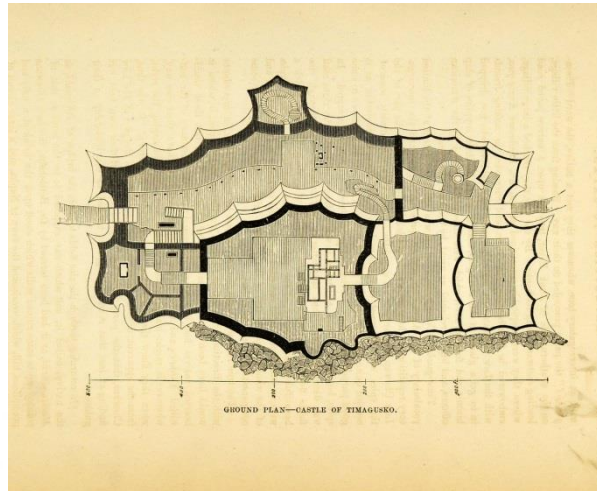
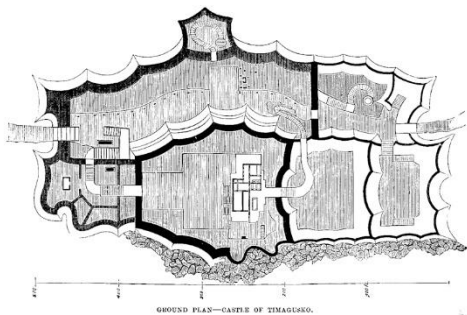


筑西市教育委員会提供復原実測図

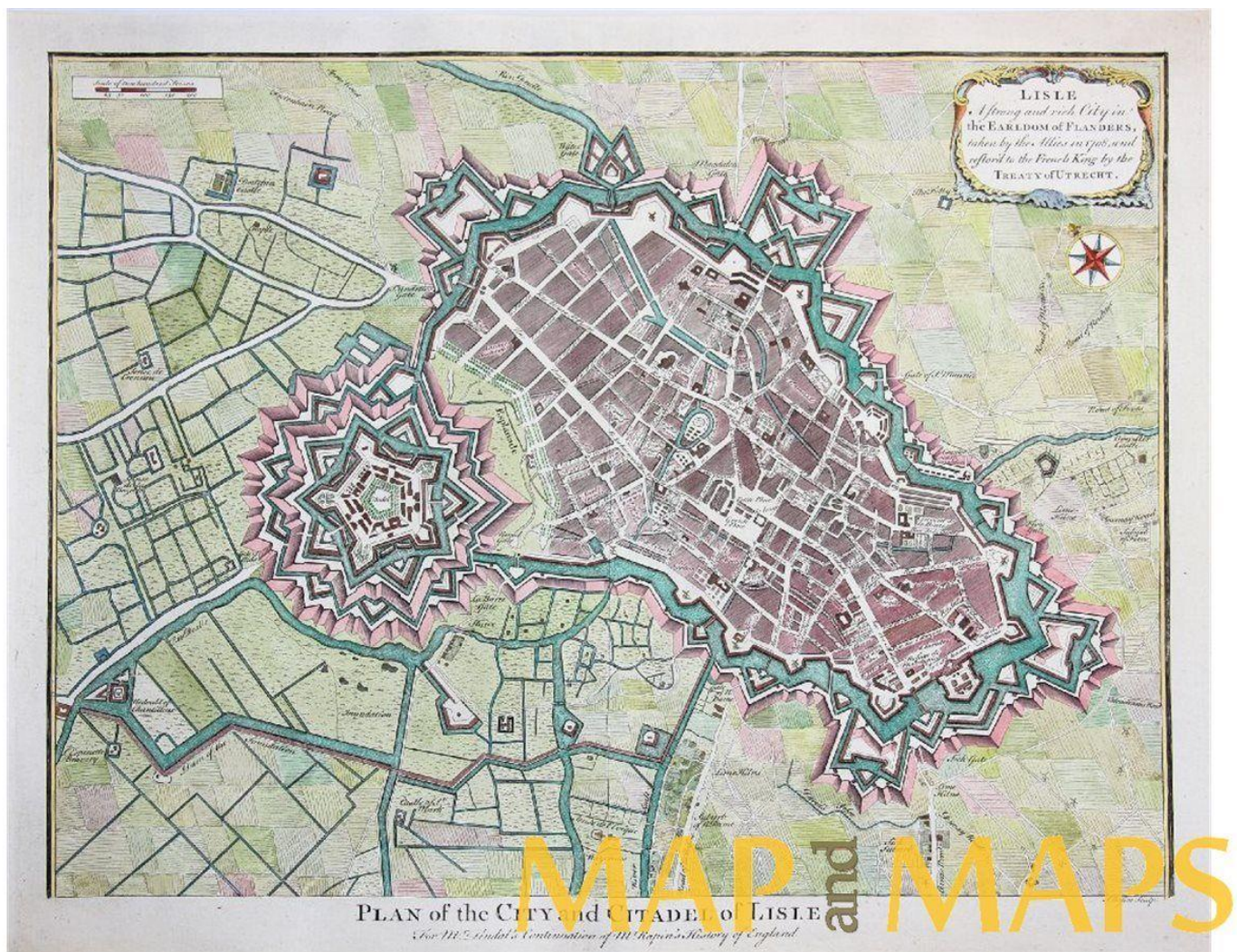
ることになる。おそらく現状遺構から見た復原と思われるが、根拠が描かれていないため、復原理由は不明である。そのうち現地調査を行い、現状を確認しておきたい。本城最大の特長は毀された東北二重土塁と空堀、一郭北の櫓台、一郭中央の仕切り堀と土塁、樋詰図面に依れば堀のみ一部現存しているようです。

2・ペルリ測量中城城実測図

平和島骨董市でアメリカのオークションに出品された城郭図をいただきました。以前もメールでいただき、首里城とされていたのを中城城とご連絡したものです。現物は落札者がわかりませんので、入手できませんでしたが、今回、鮮明な絵柄をCDでいただきました。所有者が不明ですし、おそらく日本に伝来していないと思われますので、研究資料として公開します。沖縄戦で破壊さる前の外郭が明瞭に記されています。



ペルリ実測中城城



この要塞図は、パリで10年以上前に購入し、所蔵しています。

3・伊那伊豆木小笠原家甲州流軍学者加藤正治城郭調査

平成24年伊那異業種交流会主催、伊那商工会議所後協賛、伊那市、および、伊那市教育委員会後援で伊那の三洋グラビア株式会社みまよせファクトリーホールで開催した際に、珍しい寛政年間の古城測量絵図を公開しました。当時の展示報告書にも掲載し、来場者には配布しましたが、本活動報告開始前で、一般配布していませんので、古城絵図の部分のみ再録します。絵図には平井城、滝山城、高天神城、要害山城、新府城等が含まれます。図録には伊那の古城絵図のみ白黒で掲載しました。絵図を元に地元研究家によって未知の城跡が発見され、地元研究誌に発表される等うれしい知らせもありました。今回はこれまで公表していない絵図の一部を掲載します。

第一部 伊那谷の古城絵図展

伊那谷の古城絵図展について

群雄割拠した戦国時代、伊那では数百を数える城が構築されました。これらの城跡を把握するために全国で現地調査による縄張調査。つまり、城郭構造解明が行われています。長野県での先駆的な城郭調査は大正12年から昭和26年に28年にわたる史蹟調査があり、市村成人等により、実に190ほどの古城の見取図が作成されています。全国的にはご指導いただいた中山光久大佐等における陸軍参謀本部本邦築城史編纂員会による測量調査や、類友、中世城郭研究会の縄張り調査が、故本田昇、中田正光、三島正行、西股総生によって大きな成果を上げています。近年は岡谷の宮坂武男先生による既刊二十冊の『図説山城探訪』が、驚異的な成果を縄張図と鳥瞰図で納めておられます。城郭調査は軍学の知見があり、現地を観察する能力が求められ、図化する美術センス、体力を必要とし、八十歳の宮坂先生は超人というしかありません。今回も宮坂先生の業績なしに絵図の

解明は不可能でした。筆者も図説中世城郭事典等において、縄張図を提供していますが、今回は定期的に縄張図作成を残念しました。

伊奈古城絵図は甲州流の膨大な軍学書に埋もれていました。「正治図之」と書かれた寛政7年から11年の現地調査の記録絵図です。調査の結果、正治は加藤正治、伊那旗本千石八代小笠原正著家臣と判明し、甲州流先伝系譜に於いては、岡田勝英の弟子で、寛政年中関東甲信越東海の地を行脚して、戦跡地利を探るとあります。加藤正治は地元である伊那地方の古城の測量を行ったのです。ここに、なぜ、伊那の古城調査がされ、これだけの絵図が残されたかというなぞは解明しました。一般に軍学者による縄張図は写しが多く、現地調査をされた絵図はまれで、信頼性にかけます。ここに見ていただく、調査絵図は小笠原家軍学者加藤正治の原図であり、詳細な現地調査の記録であります。今を去る217年前の城跡の姿と現在の姿を比較してみてください。古城絵図で現地、著者、年代が明確なものはほとんど残されていません。これらの絵図の希少性は明らかです。なお、飯田市教育委員会のご厚意により、小笠原家文書を閲覧しましたが、記録は得られませんでした。また、200年前の城名表示は現在と異なるため、各城縄張図を基に現在地を考証しました。

第2部 高遠城絵図 高遠城の縄張り研究としての絵図は伊那市教育委員会で、ほぼ調査されつくしています。今回、公開する城下町図や、陸軍省絵図は新たに発見されたものです。高遠城戦いの記録、主図合結記の多くを比較観察してください。

伊那谷の古城絵図展Ⅰ（Ⅱは高遠城絵図ですが、今回は割愛します。）

寛政年間縄張調査絵図と宮坂先生調査図の比較。

古城位置図 5万分1地形図5枚に10古城の所在地表示

伊那旗本1000石小笠原家家臣軍学者加藤正治調査

寛政7—11年伊那古城調査絵図1795—1799年

古城絵図10枚 各275 x 375mm

北から南に

辰野町羽場城・蓑輪町大出城・飯島町飯島城・松川町北の城・高森町原ノ城・

松川町大島城・飯田市上野南本城・飯田市知久平城・飯田市伊豆木城・

南信濃村和田城

古城絵図複製を並列に並べ、下部に宮坂先生調査図やこれまでの成果を比較展示します。展示資料は参考資料として以下に記入しています。

調査の目的は兵法の研究であるが、単なる兵法城絵図ではなく、軍学という築城の機微を心得た、今でいう縄張り研究のできる築城専門家が描いた現地調査図で破壊された城跡の現状を考えると寛政7—11年の現地調査は極めて貴重である。しかも、伊那旗本小笠原家家臣という来歴が明確である記録であることも代えがたいものである。惜しむらくは二百十四年の間に多くの散逸が見られることである。城郭名が当時の名称であり、現在の遺跡と一致しないため、宮坂先生の縄張り図をベースに調査し、長野県中世城郭跡分布調査報告書の名称、住所、規模を付記した。展示は1—10図のみ。11—30図は目録のみ。

1・信州市邑荻原城 2枚ノ内（辰野町羽場・伊那富村大字伊那富字羽場・**羽場城**・220 x 130m）図解山城探訪第4集上伊那資料編17

信ノ伊奈郡ノ内内藤大和守殿領地 城内一円羽々村ト云

参考展示 **図解山城探訪第4集上伊那資料編17辰野町羽場城**

1996年定本伊那谷の城三浦孝美羽場城遺構概念図

辰野町 羽場城絵図解説 5万分1地形図伊那図幅

図上では信州市村荻原城となり、古城と新城の2枚書かれ、古城図は失われている。宮坂先生は

新城は文禄頃1592年—5年柴氏の築城と推定されている。廃城後約200年経過、今より約200年前の遺跡の現状図で、近世城郭を思わせる縄張を持つ整然とした城郭が描かれている。今は失われた三の丸の空堀が明瞭に残され、天守台、櫓台が描かれ、畑、農家等当時の状況を克明に描く。三の丸の空堀は自然の埋没による消滅か、現在の調査は二の丸までを城郭とされ、本丸の西南部や二の丸を鉄道が貫通し、破壊している。城郭の在りし日の姿を髣髴とさせる貴重な絵図といえる。

2・信州大井手 伊奈郡（箕輪村中箕輪・中箕輪村大出・**大出城**・100 x 60 m）図解山城探訪第4集上伊那資料編36

古城地主不知 西大手口ト云

参考資料 **図解山城探訪第4集上伊那資料編36 箕輪村大出城**

箕輪町 大出城絵図解説 5万分1地形図伊那図幅

図上では信州大井手となり、天竜川と帯梨川に挟まれた台地に構築される。三状の横堀によって、台地上の村から遮断される。二、三の空堀に挟まれた本郭は国道によって破壊され、二の郭と二段の帯郭が残され、本郭東の帯郭が通路状に描かれている。本郭の空堀と次の空堀の間はすでに、村と表示されている。廃城200年後の絵図でさえ、廃城時の姿から変貌している様子がうかがい知れる。本郭を描く、貴重な絵図といえる。

3・信州伊奈郡春近ノ庄本郷城二枚之内古城ト云（飯島町大字本郷・飯島村大字本郷・**飯島城**・1000 x 400 m）図解山城探訪第4集上伊那資料編96

寿永年中片桐城主兵庫介為行之三男次郎大夫為綱居是ヨリ後以在名為家号応永之頃飯島若狭守相伝都テ春近ノ庄二士大將八人アリ皆片桐之類ナリ此内稲辺宮田殿島ハ弘治年中武田二亡サル片桐飯島上穂赤沢田切是ヲ五人衆ト云飯島民部少輔同長子新九郎共天正十年大島城ニテ打死故二当地飯島一円ハ二男辰千代相伝同年徳川家へ降参本領安堵二百貫軍役十騎

慶長六改飯島領二千百七十三石余元和三脇坂氏領ス寛文十二ヨリ徳川領

右は西岸寺ノ記録二見エタリ

飯島町 飯島城絵図解説（本郷城） 5万分1地形図飯田図幅

図上に信州伊奈郡春近ノ庄本郷城とされ、古城、新城の2枚あり、新城図は失われている。新城とは本城部分を言い、古城絵図は本城の東、古町から天竜川までを描く。天竜川沿いの稲荷社のある古城はよく保存されている。深い濠を経て、四段の一郭の郭、さらに、2つの空堀の2番目遺構が古町となり、中央の空堀が国道153号線で削られている。地形上要所にある城跡は破壊を免れない位置に立地している。本図も廃城時の様子をよく表している。

参考資料

図解山城探訪第4集上伊那資料編96 飯島町飯島城（本郷城）

地形図・飯島城跡概念図・本郷城（飯島城）址実測図

『本郷南羽場。陣垣外』飯田市教育委員会

飯島城略測図郷道哲章『信州の山城』信濃史学会1993年

4・信州伊奈郡北城（松川村元大島新井南部・大島村・**北の城**・250 x 100 m）図解山城探訪第7集下伊那資料編4

寛政十一年八月二十日朝平栗六左衛門方出立山吹座光寺殿家中市瀬新左衛門吉久同伴古町邑知久勘左衛門案内同日夕方見物此城荒井村ノ内ナリ松平摂津守殿領分ト云古龍ノ口台城ノ主大島新太郎ノ分家大嶋讃岐守為元守之台城ヲ避フ北ノ方ヘ凡三十五町則大城ノ鎖城ト云々

正治日讃岐守ト云ハ非ナルヘシ大島次郎為元ト云々初ハ台城之主也武田領トナル時当城ヲ築キ居之知行三百貫又曰台城ヨリ三十五丁ト云**共**在郷道十二三丁存**ヨリ**一説二為元ハ沼ノ城

ニウツル共云是ハ辰ノ口氏相伝之城也孰レカ是ナルフヲシラス後人考ヘシ今案内者之語ノ俣
二記シ置ナリ

正治図之

松川町 北の城絵図解説 5 万分 1 地形図飯田図幅

図上信州伊奈郡北城とする。天竜川の流路変遷、国道 153 号線破壊、工場進出等により、現状は大きく改変されている。国道に面した郭が本郭で、二郭、三郭と空堀で仕切られ、土橋でつながる様子が描かれている。1972 年までは、本郭、二郭の空堀は現存、三郭との空堀は埋められている。本郭も工場となり、ほとんど、残存しない古城の姿といえる。

参考資料

図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 4 松川町北ノ城

北ノ城附近の地形図『家の前・北の城遺跡』松川町教育委員会 1972 年

5・信州伊奈郡山吹ノ内 原城 (高森町山吹龍の口・山吹村龍の口・**原ノ城**・200 x 150 m)

図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 8

沼ノ城共云 台城ヨリ西**マサル**丁八丁ヨ

寛政十一年未八月再見一二出丸屋敷跡共木立ナリ東ハ大沢切岸西ハ平地二取ツツク此城辰ノ口弥四郎矩縄自テ居之甲軍伊奈打入ノ寸勢ツヨリ築タルママニテ居住ナシ共云又甲州へ降り持城トナツテ信長打入之寸亡ヒタリ共云一書云武田領トナル寸台城之主大嶋次郎為元元龜二年此城へ移ルト云又北ノ城へウツル共云

高森町 原ノ城絵図解説 5 万分 1 地形図飯田図幅

図上信州伊奈郡山城の内原城と記す。高森町提供の宮坂先生改定推定縄張図は古城絵図そのままである。道路のルートもできるだけ郭の破壊を最小にし、空堀を通過している。この絵図からは、寛政の軍学者と我々、現在の縄張り研究者の視点が全く変わらないことをよく表している。宮坂先生の復元力に敬意を表します。

参考資料

宮坂武男氏原城縄張図・鳥瞰図 高森町歴史民俗資料館提供 2012 年

6・信州伊奈郡龍之口邑台城 (松川町古町南部・大島村・**大島城**・400 x 300 m) 図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 5

施戸庄大島郷カウツノ内南北三里ト云

甲州エ攻取日向守昌辰守之後武田逍遙軒信

此城縄張ヲ直シ城主トナル時二此城ノ川向寅ノ方二川ヲ

隔テ城ヨリ高キトウガ峰ト云山アリ此山ヨリ織田信長

石火矢ヲ飛シテ打崩シ此時落城破却ト云元祖

大島讃岐守初テ城地トスル處也

松川町 大島城絵図解説 5 万分 1 地形図飯田図幅

図上信州伊奈郡龍之口邑台城と記す。元龜 2 年武田信玄による普請であり、甲州流の築城の代表例といえる。早くから縄張り研究がされ、大正期に市村咸人、戦後、類友本田昇以降、多くの研究家が踏査、記録している。古城絵図は二の丸の三角馬出が未記入であり、最大の特徴である丸馬出の描き方が不自然である。調査者の他の古城調査レベルからこれらの見逃しは考えにくい。あるいは破城の影響を受けたのか、判断に苦しむ。伊那谷最大の中世城郭、絵図は織田信長の石火矢による落城を伝えているが、信長が到着したのは一ヶ月後である。各位の研究成果を堪能いただきたい。

参考資料

市村咸人氏大正 14 年大島城址実測図史蹟名勝天然記念物

故類友本田昇作成 大島城図 1974 年青焼き 池田光雄氏提供

3cm 角で表示作成してください。

原田秀文氏大島城要図『日本城郭大系 8 長野・山梨』1980 年

宮坂武男氏『図説山城探訪第 7 集下伊那資料編』1999 年

西股総生氏大島城鳥瞰図『戦国の堅城』2004 年

松川町教育委員会パンフレット表紙大島城実測図 2012 年

7・信州伊奈郡坐光寺村城（飯田市座光寺字本城・座光寺村字本城・**上野南本城**・500 x 200 m）図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 109

近江**最**上上ノ善地也**施**戸（ガウヅ）庄

城主不祥城上一面ノ芝山四方山ノ根切レテ数十丈タカシ後左右之山ヨリモ地高ク秀タリ

北ノ方洞ニツ越テ高雲寺ノ城跡ナリ東北ノ間別テケンソ案スルニ宮崎ノ城ト云ハ是ナルヘシ然レハ応永年中宮崎孫次郎守之同子孫蔵松岡氏ニ從フ天正ノ始八郎代ニ勝頼ノ旗下ナリ同子小三郎徳川家同子熊蔵忠政代ニ諸大夫ニ叙セラレ大身トナリ駒場向関ヲ領地此地六千石ハ舍弟エ相伝ナリト云々考ルニ此地上野ト云テ高雲寺城ヲ宮崎ト云シヤ其事祥ナラス宮崎ハ黒田邑ノ界ニテ争論ノ場ナリ今弔ベシ故ニ爰ニ記シ置者也

飯田市 上野南本城絵図解説 5 万分 1 地形図飯田図幅

図上信州伊奈郡坐光寺村城と記す。古城図は本城ヨリ南を描き、本城北の大堀切より北を高雲寺の城として描いていない。本城の土塁、虎口、南尾根、東南尾根の各郭配置、空堀も現状に忠実である。南尾根の横堀、本城横の古賀比神社のある郭は描いていない。

参考資料

上野南本城跡見取図 佐脇敬一郎『信州の山城』信濃史学会 1993 年

上野南本城概略図 藤本正行『定本伊那谷の城』1996 年

上野南本城縄張図 『南信州の山城』平成 21 年飯田市上郷考古博物館

8・信州伊奈郡知久平城（飯田市下久堅知久平・下久堅村・**知久平城**・550 x 200 m）図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 100

菅沼大膳守之ト云非ナリ 農家之説ノ俚ニ爰ニ記ス

往古ヨリ知久氏領之弘治年中知久大和守**第**善左衛門居城天正年中ヨリ菅沼大膳亮持老臣守之慶長十年成破却飯田領トナル寛文十二子年ヨリ徳川領代官持天和元年ヨリ松平摂津守領飯田市 知久平城絵図解説 5 万分 1 地形図時又図幅

図上信州伊奈郡知久平城と記す。昭和 14 年の市村の調査が詳しいが、古城図と比較すると、古城図に三の丸は描かれていない。その外の推定空堀 2 本は存在しないことになる。本丸、二の丸、総構の配置はその通りであるが、本丸の形状に差異があり、古城図では本丸に立派な櫓台、本丸東南に枳形虎口があり、二の丸の虎口も描かれている。現地が困難なためか、その後の調査図は市村図を踏襲している。

参考資料

図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 100 飯田市知久平城

知久平城址及其付近『史蹟名勝天然記念物調査報告 20』1939 年

知久平城跡道取図佐脇敬一郎『信州の山城』信濃史学会 1993 年

9・信州下伊奈郡伊賀羅庄北伊豆木城（飯田市三穂伊豆木城山・三穂村・**伊豆木城**・400 x 300 m）図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 118

伊豆木美作守応永年中築城

慶長六丑年ヨリ小笠原鞠負意鉄齊寛永年中弾正寛文年中鞠負長朝三楽齊元禄年中弾正長貞

享保十年ヨリ韃負元文四年十月ヨリ兵庫長孝明和安永ノ頃韃負長照天明年中ヨリ兵庫介長箸
無子寛政年中松平駿河守家ヨリ養子式之助長計ト云々

飯田市 伊豆木城絵図解説 5 万分 1 地形図時又図幅

図上信州下伊奈郡伊賀羅庄北伊豆木城と記す。小笠原家書院の裏山にある。古城図は本丸、二の丸、三の丸を明確に描く、本丸堀と二の丸堀の南に下屋敷、三の丸堀は御泉水につながる。二の丸西の尾根に三本の堀切等絵図は当時を忠実に描いている。古城図を参考に遺跡の検証をしていただければ、いい結果が期待される。

参考資料

図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 1 1 8 飯田市伊豆木城（羽根ヶ城）

伊豆木城跡・小笠原氏館跡実測図 三穂村史委員会原図 市村咸人

1 0 ・信州遠山城（南信濃村和田中・上の平地・和田村寺中中・上ノ平地・和田城・1 0 0 x 6 0 m）図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 9 0

遠山土佐守守之 遠山庄和田之古城是ナリ

遠山ノ庄ハ伊奈郡ノ内東南之山入ニテ第一之深山ナリ遠山六ヶ村ニテ千八十石三斗六升五合ナラシ免斗代三ツノ下免ニテ遠州堺ヨリ北大河原界迄凡二十里之一郷ナリ当地二堡ヲ構エ鎌倉権五郎景政十六代之孫遠山蔵人当所ニ居住シテ在々之土民ヲ討從テ領主ト成テ是ヨリ以遠山為家号ト累代居住 慶長年中遠山土佐守政吉知行三千石内千八十石余鹿塩大河原近辺千石上穂ニテ五百石箕輪ニテ五百石領之同子新介二男源五郎賞罰二怠リ百姓一揆之為ニ滅亡是城破却夫ヨリ百姓面々持トナル

右ハ当所龍延寺之書記ニ是エタリ

南信濃村 和田城絵図解説 5 万分 1 地形図満島図幅

図上信州遠山城と記す。昭和 5 年市村氏の詳細な調査がある。古城図では出丸に櫓跡、本郭南端に一段高く小郭が描かれる以外、虎口の通路を含め、ほぼ、現状通りである。宮坂先生の縄張図に於いても、ほぼ同様です。

参考資料

昭和 7 年市村或人氏和田城址・和田城址附近図史蹟名勝天然記念物

図解山城探訪第 7 集下伊那資料編 9 0 南信濃村和田城

展示以上 1 0 点です。以下は調査未完のため、展示していません。

1 1 ・信州伊奈郡老ノ屋布城 四ヶ城図四枚ノ内

絵図に描かれた今田の渡し近傍にこの絵図に相当する古城は存在しない、すでに消滅したのか、引き続き確認中である。（この城跡は展示会後研究家松澤保氏によって発見されました。）

1 2 ・信州岩尾

佐久郡ニアリ真田弾正守之甲州持ト成テ二円之縄ヲ改幸隆上田ニ移ルノ後廢城ス
天文年中岩尾小次郎相伝ト云 天文可誤

1 3 ・信州内山古城

佐久郡ニ在飯富兵部少輔守之
正治曰昔依田小三郎豊平先祖ヨリ代々注之
天文年中武田領トナル兵部少輔在城
服部直方図之 岡田巨梁齊 正治 松本周好写之

1 4 ・信州海尻

佐久郡ニアリ甲州ニ得テ縄ヲ改初小山（田）備中小宮山丹後守ル兩人小諸城ニ移ル後廢城

ス 非ナリ

正治曰古平賀氏領之甲州堺也天文九年以降小山田備中守平信常初号六左エ門七百貫本領甲州石田同十二年海津城エ移ル二円日向大和三円長坂左エ門守当城二三ノ円村上方エ攻落サルル後小宮山丹後守守外郭天文二十二年小幡山城日意居城千八百貫永禄年中再城代長坂左エ門入道釣閑齊四十騎四十五人高五百貫其後廢城

直田図之 岡田勝英 正治

1 5・信州海野口古城

佐久郡二在信虎是ヲ得テ廢城シ溝壘ハ堅固之地ナレハ其儘置ヘシトテ地ノ土ニアツケラル

正治曰当城者平賀持出張之番手城ナリ元暦年中甲斐源氏末葉平賀判官景宗ヨリ代々以在名平賀為家名鎌倉頼家ノ時左エ門佑朝政領地治承年中平賀冠者盛義同子小太郎義信同子五郎左エ門尉義頼此子平賀左エ門尉從四位下成頼入道元信於岩村田討死一書ト云平賀盛義有義資義義信朝信ト相伝スト云云

一書云此地ハ甲州界平賀成政旗下ノ城天文六年酉十二月武田氏ノ為ニ落城ト云云

直方図之 巨梁勝英 正治

1 6・信州桑原

在諏訪郡上原城トモ云駿河守信形居之頼茂ノ附城也

諏訪家亡テ信形頼茂ノ本城ニ移ル故ニ此要塞ヲ廢ス

服部直方図之 岡田勝英伝来

1 7・信州天飾為古城

小山田備中守信常在城 服部直方図之 岡田勝英伝来

1 8・信之長沼古城

越後界武田家ヨリ輝虎押之城飯山ヨリ六里北海津ヨリ西エ五里ト云云

文暦年中長沼淡路守源宗政代々川中島村上氏ノ旗下タリ永禄年中武田信玄再築城家臣市川宮内少輔惣兵千人守之同十一年城普請成就番手トナル本日物頭市川宮内入道梅卯騎馬十騎足輕五十人惣兵千人二ノ円本主与左エ門十騎五十人相備山辺赤沢同与左エ門一子与九郎十騎五十人家督ス後号長沼与左エ門天正十年ヨリ上杉景勝押領ス筑摩川ヨリ東ヲ長沼組トシテ長沼之相備ニ附ラル景勝城代島津淡路守百二十騎初ハ甲州エ属シ無程徳川家エ被攻落元和二年ヨリ飯山領佐久間日向守次男備中守勝頼此時廢城同安房守勝豊領分同織部勝親貞享年中死無子所絶此後徳川領

景憲図之 岡田勝英

1 9・信州高島城再図 不祥

2 0・信州上田 上田ノ庄尼ヶ淵城ト云

尼ヶ淵城ト云初海野氏後真田氏居ス村上ノ為ニ亡ヒ頓テ甲領ト成テ弾正幸隆再注近郷伊勢崎ニ此城ツナギノ砦アリ故ニ本城共ニ伊勢峠ノ城トモ云小県郡ニ在リ

正治曰軍鑑云真田居城吾妻按スルニ戸石ノ近所ニアカツマト云在所アリ又上州ニモ吾妻郡アリ何レ沼田迄真田領ナレハ此ニヶ所ノ内イツレモ定カタシ後学可考

正治云古ノ城ハ上田ヨリ一里北戸山ニアリ一説初村上氏居城ト云此城図者真田幸隆ノ代ニ築城西向大手平城東ハ切岸川ニ副鎌倉北条義時ノ頃真田刑部三郎貞幸ニ上野国ニテ七千町ノ加増アリ此地ト合領ス往昔上田ノ奥ニ真田ト云所有京都ヨリ皇孫ノ配所ニテ其孫ニ滋野姓ヲ賜リ在名ヲ以家号トス一書云人皇五十八代孝光天皇第十三ノ皇子是茂王ニ源姓ヲ賜リ後又滋野姓ヲ賜ト云又云清和帝ノ孫六孫王經基丹波国水尾ニ居此孫人臣ニ降リ信濃国真

田二注ス後海野二居注故海野ヲ以家号トス上田ヨリ一里半北之海野小太郎滋野幸義後真田左京大夫ト改又真田二居城天文年中真田弾正忠滋野幸隆本知当並上州吾妻沼田城マテ領知シテ関東管領上杉憲政ノ旗下タリ北条氏康二攻ラレ没落ス後武田家エ属シテ再当城ノ主トナリ三千貫ヲ領ス天文二十年二月号一徳齊○元龜年中真田源太左エ門滋野信綱三百外五十騎第兵ア相備也天正三年信綱並兵ア昌輝共長篠討死天正三年以来安房守昌幸是幸隆三男ニテ初源五又武藤喜兵エト云兄兩人討死故一跡三千貫石高二シテ六万石領ス天正九年勝頼ノ命二因テ北條持ノ上州エ働キ旧知ノ沼田速高名来美(ナクルミ)小川猿ヶ京新庄中庄岩櫃此ハヶ城ヲ攻取合テ十三万石領ス天正十年武田没落後自立トナリ徳川家エ不従和談ノ上ニテ其後太閤二属ス

慶長ノ初昌幸上州伊勢崎二居住シ沼田城ヲ嫡子伊豆守信幸ニ譲リ本多忠政縁者タルヲ以徳川家エ属シ当城ハ左エ門佐幸村相伝関ヶ原戦ノ寸石田三成二組父子共没落安房守ハ高野山ニカクレ幸村ハ大坂二籠城慶長二十年大坂没落後同年九月ヨリ番手ト成濃州金山侍従森右近太夫忠政家臣エ預ラル其後真田伊豆守信幸十三万石元和八年海津城エ移ル同年仙石兵部少輔従五位下源忠政六万石内一万石ハ此度加増小室ヨリ移ル寛文年中同越前守政俊五万八千石外矢沢二千石第治左エ門エ分知元禄年中同越前守政明初号政栄宝永三年但馬出石エ移同年松平伊賀守従四位侍従忠徳後改忠周五万八千石先領四万八千石京都所司代一万石加増但馬出石ヨリ移ル後為老中役享保十六家督同伊賀守忠愛

服部直方図之 岡田藤原勝英 静幽正治写之

2 1・上野平井上杉古城

景憲此図ヲ見テ符川行貞ノ画スル所ウタカイナシトテ褒美違ワス



2 2・甲州古府躰躰崎武田晴信居城図

未十月二十四日於城内図之

2 3・甲州新府再図 遠見図故方角不祥

未 十



月二十五日見之

2 4・甲州石水寺要害図 此要害三方山包ミ腰切レテ大洞也

未十月二十四日図之

2 5・甲州長峯古城

小山田備中守信常号家岳院ト此北家岳寺二位牌アリト云々

2 6・甲斐八ッ代古城

穴山伊豆守梅雪之城跡也

二三ノ郭ハ崩レテ田畑トナル一向ニワカリカタシ

2 7・遠江相良

前矩馬場信房ト云非之 高坂弾正晴久ト云云

天明五巳年正月日 田沼主殿頭臣 次藤徹龍齊図之

三上庄兵衛致之相伝 三上文治源信周

寛政十年正月正治回国之節見物之時ハ惣曲輪悉ク崩レ田畠トナリ一向分ラス本円斗残り矢倉ノ跡高ク見エ湮ノ跡ナトモ皆ウマリシナリ

28・遠州相良古城

次藤次郎兵衛縄田沼主殿頭在城天明年中廢城田畑トナル

首藤徹龍後薙髮下総国常勝寺住職之時好二応シテ闇二図シ与ラル又云別二相良城信房縄張之古城図ト既同シ古城ヲ直シタルモノカ又ハ二図之内イツレカ非ナルヤ審ラカナラス
寛政七年秋七月正治写之

29・遠江高天神 城地海道ノ南二当ル

甲州方縄直シタル図 今廢城ト成テ如此

今川義元領ノ時福島上総介政成徳川領ノ時小笠原与八郎長忠武田領ノ時番手城タリ

30・武州滝山

古北條氏康持北条陸奥守城主其後廢城



関係資料

甲州流先伝系系譜（甲州流兵法・昭和42年）

岡田勝英 元天野政右衛門、阿波に生る。久貝政郷の臣、天明頃亀井出雲守に仕う。巨梁先生と号す。寛政八年没、年七十。

加藤正治 江戸麻布荦士、明和八年生る。天明四年信州伊奈小笠原長著に仕う、天明八年久留米藩軍師三上致之に入門、のち織田秀綿の臣筋賊矩之に従い謙信流を学ぶ。寛政年中関東甲信越東海の地を行脚して戦跡地利を探索。文化二年小笠原家を辞し麻布に住す。文政十二年剃髪、時に年五十九。

山鹿流布施系系譜（山鹿流兵法・昭和42年）

岡田勝英 号は巨龍斎、亀井茲求の臣、甲州流兼学。

加藤正治 田中家（田中貞宣・貞幹・貞方）蔵の山鹿流伝書全部を譲受く。

小笠原長著は伊那伊豆木の旗本と判明、飯田市小笠原資料館にて、7月24日飯田市教育委員会の協力で加藤正治の調査を予定。

4・コレクションズ古地図・城・錦絵5は千早城楠正成の奇計・6は城郭模型リアルな長篠城跡・7は3Dへの憧れ飛び出す絵本を掲載します。

掲載紙は印刷業界の技術雑誌『コンバーテック』5月、6月、7月号です。リアルな加工技術の紹介です。絵柄はシンデレラ。驚きと感動があります。一応シンデレラ**城**です。

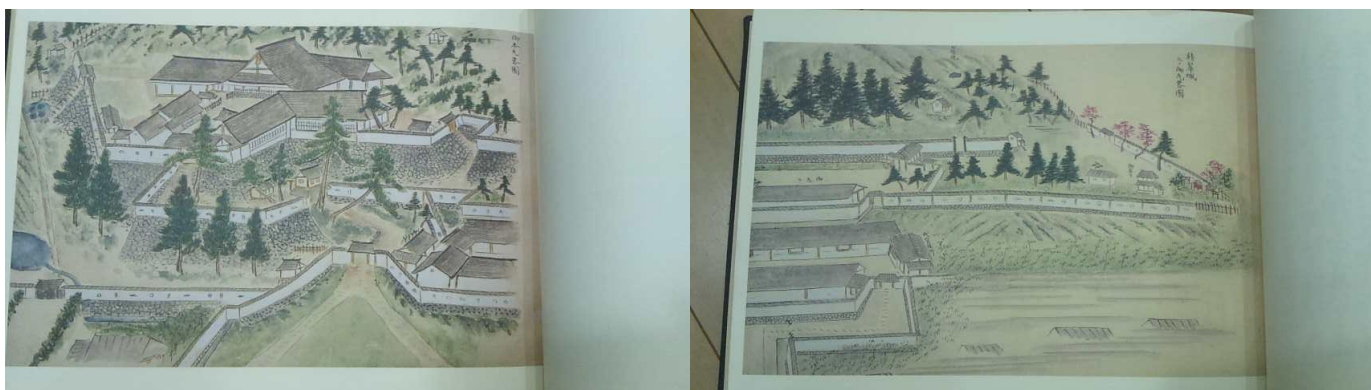
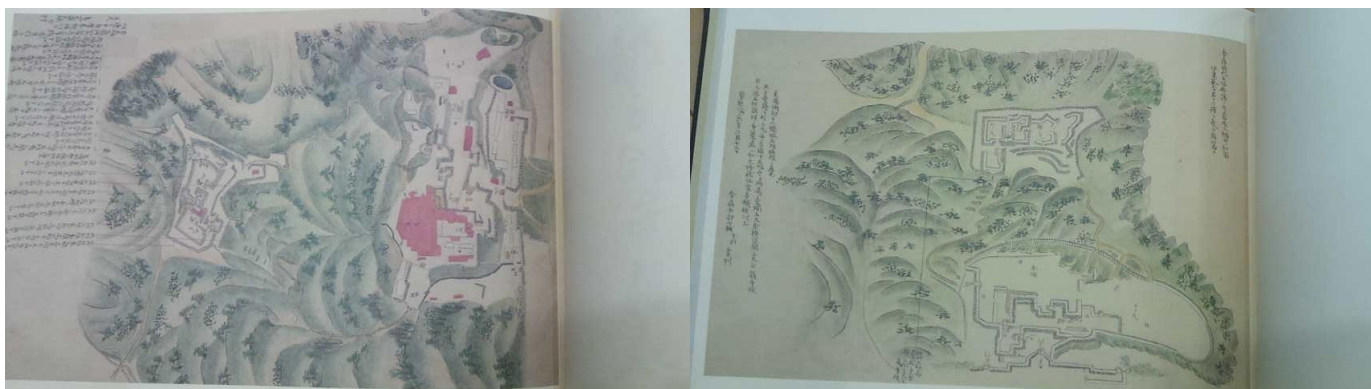


5・まぼろしの館林城木版絵図の正体

10年以上前に入手した木版の館林城縄張が描かれた絵図の残片がある。長い間これはどのような絵図の一部であろうかと探求していた。何せ、木版で縄張が描かれる城絵図は江戸や大坂を覗けばそれほど多くない。国図の一部にしては、館林城が大きすぎる。郡図、藩領図で木版などあるのだろうかと考えて居たら、館林市立資料館の図録『徳川綱吉』に発見した。『**館林領五郡農家水配鑑**』という刷り物の右上四分の一ほどであった。ちょうどその部分が城跡であった。よく見ると書き込みが水利や堰にかかわる説明で埋め尽くされている。手元の残片は木版刷で、32 x 47 cm、察するところ全体では65 x 96 cmの大きさである。尾引城、御城沼の文字と縄張の記された絵図は図録の説明で「徳川綱吉の館林藩主時代、館林領組合がつくられ、領内109か村の村名と石高書きされ、治水事業や新田開発の状況を伺うことが出来る」とある。小さくて見えないが、絵図の年代は記入されていないようである。

6・『郡上郷土史料』に見る郡上八幡城絵図

復刻郡上郷土史料 1992年 郷土史料壺に**積翠城二ノ御丸略図・御本丸略図・下御殿略図** 式に**八幡城絵图文久・八幡城絵図宝暦八年** 参に**八幡山周辺鳥瞰図**等壺壺六件の資料が治められ旨、前



号で紹介した。資料整理の関係でカラーコピーし、郡上八幡城の分類に入れようとしたが、分厚くコピーが取れない。分解するのもいかなものかと、撮影に切り替えた。なお、同書は1992年限定350部で55000円です。

7・5月6. 7日第1届東京古典籍古美術拍卖会東京飯田橋開催 中国絵図出展

参加依頼があり、中国の木版絵図をお出ししたところ、大部の目録をお送りいただいた。平和島を目当てに来日される中国の方を対象に中国語の目録である。古地図が数10点掲載されるのも、大半は小生がこれまでお分けした絵図、地図であった。6, 7日は平和島終了後で、同好会目録対応で残念ながら入札会には参加できなかったが、自らの販売資料の中国における評価が相当高いことを確認できた。

8・地図情報133号5月1日発行 三春県絵図方測量図三春城紹介

陸軍省城絵図に含まれる三春県絵図方絵図が140年ぶりに仲間の三春県絵図と再開しました。さぞかし感激でしょうね。この機会に三春城関連絵図を公開しています。又、東京古地図倶楽部の藤本一美さんが防府の中学が防府市鳥瞰図のモザイク画を紹介、附図に初三郎防府市鳥瞰図が添付されている。

9・吉田初三郎原画木曾川流域発電鳥瞰図原寸複製頒布

印刷図未発見の初三郎原画を**原寸約40x157cm**で複製頒布します。限定5部です。費用は送料込で20000円。現在の技術の粋を集めての原寸複製です。リアルな透明感のある青と緑が楽しめます。折目つなぎ目なしの優れものです。締め切りは本紙刊行後1か月以内。



新収集情報報告

掲載は入手順に入手後、翌日に記載しています。メモ代わりの備忘録ですので順不同です。

掲載分類は城郭図、城郭錦絵は城郭、群馬地図、資料は群馬、錦絵地図は錦絵、地図類は航空写真も地図、錦絵軍事、砲術、調練は軍事、後はタイトル通りです。

1・古絵図・古地図

大日本道中早引細見図 文政13年1830年 吉文字屋市兵衛板 籬島軒秋里編 木版色刷

36, 5 x 120 cm

武州豊島郡江戸庄図 江戸新聞付録 明治22年 39 x 54 cm 寛永版江戸絵図縮写 活版

京都大津間疎水線路之図 明治25年度 銅版カッパ刷色 石田有年著

尾張国津嶋神社境内真図 名古屋市和泉町春栄堂石印 石版 36 x 47 cm

大日本職業別明細図兵庫縣634姫路市 東京交通社 昭和15年 57 x 79 cm

大日本職業別明細図之内本郷区 東京交通社 昭和3年 43 x 64 cm 東京大学駒込周辺

大日本職業別明細図長野県小県郡図上田市丸子町 東京交通社 昭和8年 53 x 79 cm

改正番地入東京市全図 大正10年 丸善好文館 5 x 78 cm

最新実測仙台市街全図 明治39年 仙台市役所御蔵版縮写 袋付 駒絵18景 47 x 63 cm

最新札幌市街図 明治39年 石版色刷 中村信以 裏札幌名所の葉写真12景 48 x 66 cm

前橋市街全図 明治43年 裏群馬県主催一府十四県連合共進会写真集覧 39 x 54 cm

新潟県下越後国全図 内題新潟県管内越後国全図 木版色刷 表紙付 74 x 140 cm 明治初期

MANCHOUKUO(満州) 200万分1 1932年 日本文化同盟 英文地図 78 x 108 cm

薩哈噠州主要物産要図 24 x 34 cm 北樺太とアムール水道、韃靼海峡

無名(南洋地図)白地図 南洋庁長官官房調査課 71 x 99 cm

大東京交通図 昭和10年 帝国鉄道協会 78 x 110 cm

東京海湾 大正11年測量昭和11年刊 78 x 108 cm 海図

台北城内・北門・基龍水雷營所前・金山之戦・上陸点・台北城内市街・基龍右方砲台等 近衛歩兵2-6 明治28年 日本附録 38 x 52 cm

天保9年世界地図解説 阿部喜任著大山義信校定 木版27 x 66 cm

陸軍文庫旧蔵北海道実測図 明治13年 参謀本部 銅版 115 x 126 cm

陸軍文庫旧蔵第一軍管図一部 明治12年 参謀本部 銅版 新潟佐渡地区 39 x 98 cm 関東南部 95 x 120 cm 関東北部と新潟が繋がるか

陸軍文庫旧蔵第二軍管図 明治12年 参謀本部 銅版 東北青森一福島 107 x 270 cm 同一図2枚

陸軍文庫旧蔵第三軍管図 明治12年 参謀本部 銅版色刷 北陸・中部 104 x 160 cm

別府温泉及地方遊覧図 大正3年 39 x 54 cm 萩原定助

大日本図解全 中村甚之輔写 木版和装本 明治肉筆

量地指南 享保17年1732年 村井昌弘 木版絵入本

松本市全図 明治41年 39 x 54 cm 松本書籍商組合

中央東線諏訪みやげ一名諏訪案内 大正9年 山内正一 裏諏訪沿革名所旧跡物産温泉紹介諏訪鳥瞰図 56 x 78 cm

大日本職業別明細図山梨県 大正6年 中巨摩郡北巨摩郡 55 x 78 cm

上野国全図 大正10年 群馬県市町村一覧 52 x 79 cm

北海道移住案内第43号 北海道庁拓殖部殖民課編 北海道図 昭和7年 54 x 79 cm

樺太 吉田初三郎鳥瞰図 樺太観光交通鳥瞰図 樺太庁 刊記無 18 x 76 cm 表紙付

5万分1地形図210枚 昭和26-28年

日本近海海図22枚 備讃瀬戸東部昭和36年・備讃瀬戸西部昭和41年・野島崎御前崎昭和15年・下田港戸田港昭和4年・宗谷岬小樽港昭和4年・**大阪港堺昭和39年**・徳山湾及附近昭和13年・関門海峡下関海峡昭和39年・燧灘附近諸分図坂出港付近土生港付近観音寺港新居浜港昭和11年・九州北部下関海峡至平戸瀬戸昭和8年・**大阪湾昭和9年**・三原瀬戸及附近昭和10年・大王崎至潮岬昭和5年・御前崎至伊勢湾昭和5年・備前諸港岡山水道片上港付近牛窓港付近昭和5年・内海一名瀬戸内東部昭和5年・参考図日本九州西岸江迎港付近昭和25年・足摺岬至折生迫昭和5年・別府湾臼杵湾付近昭和5年・紀州大島至鹿児島海湾昭和5年・来島海峡至由利島昭和4年・紀伊水道及附近昭和5年 78 x 108 cm 2枚は54 x 78 cm

地図絵葉書 高砂町全図・西天龍農業倉庫と西天龍耕地整理組合地区との関係・桑名の四季**前田虹映画桑名名勝4枚**・

洛東洛星洛南洛北京名所交通図絵 4枚1冊 初三郎 昭和3年

2・古文書古典籍

寛永5年1628年真田伊豆守臣根津甚平花押状 覚書 福島正則仕置き履歴

3・印刷資料

なし

4・錦絵・引札・双六・絵葉書・古写真

大日本六十余将对馬**総対馬守義智** 芳虎中国**朝鮮地図検分の図** 春亭京鶴記**朝鮮役釜山城攻め、京城攻め落し、平壤牡丹台出丸構築記録** 極め印なく、明治の赤絵であるが、丸に横S字印

雪月花 陸奥 周延（橋本直義） 明治18年 遠景に城壁2層櫓2基水門あり

千代紙大判100枚余・倍判4枚 木版各種絵柄

増訂改版錦絵の改版の考証・1名錦絵の発行年代推定法完 昭和7年 限定300部

瓢軍談五十四場第四此下宗吉割普請破損をおさむ 芳艶 大判錦絵 **清州城修築絵図**

明治元年戊辰ノ夏、旧幕ノ勇臣東台ノ戦争破レ奥州ヘ脱走、夫ヨリ函館ヘ押渡、再松前城ニ於テ合戦ノ図 錦絵3枚続き 永島孟斎画 右上に**福山城5層天守と2基の3層櫓、石垣、城門3基**を描く。手前に板倉佐久間伊庭の旧幕府軍が大砲で応戦、左に官軍の2列銃陣、**湾の周辺に3基の海岸台場、江刺から北見までの山中に3基の台場**が見える。湾内に軍艦と帆船各1隻が描かれる。刊行は改め印から明治8年亥年4月と思われる。

日清戦争立版古 5枚の内4枚



5・軍事資料・武器武具

練兵実備上中下 嘉永3年1850年 山鹿素水 全3冊 木版

三方原戦史略記 大正14年歩兵第18連隊

騎兵射撃手薄

6・城

前々差見皿城3景18枚 城内に3重櫓・城壁土塀と3重角 櫓・折を持つ城壁と土塀3重櫓・折を持つ城壁土塀と3重角櫓 径22, 5cm 18枚木箱入り

九谷鍔木造城郭絵柄盃 直径67mm、高さ22mm。絵柄は中央に金沢城と思われる4重矢倉と3重矢倉、瓦の部分は金泥で金箔瓦が表現され、周りは金泥で縁取られ、中華紋が描かれています。裏には底に赤丸に金泥で唐草紋と銘があります。淵はエナメル調の黒で押さえています。詳細は金沢鍔木工房に問合せ中です。

皇居御大画幅 明治30年 塚本岩三郎画 53x72cm 石版

金城名古屋名所図 大正3年 石版色カッパ刷 39x54cm

川崎渡月見 石和版 芳雪画 **大坂城上空に満月**

城郭文献 安土城天守の復原とその史料について下国華第999号・**特別史跡安土城跡保存管理計画策定報告書1000分1安土城跡実測図4枚1組**・学芸員が作った津山城の本・安土城考古博物館紀要開館5周年記念号第6号・彦根山由来記・近江の城・歴史研究弘前城、仙台城、中世山城、小牧長久手、駿府城、日本の城・戦国の城攻めと守り小和田哲男・幕末維新の城一坂太郎・豊臣秀吉と大坂城・中世城郭の縄張と空間・城を攻める城を守る・戦国静岡の城と武将と合戦と小和田哲男・世界遺産姫路城を鉄骨で包む・日本の名城解剖図鑑・戦国大名の城を読む築城攻城籠城・神奈川中世城郭図鑑・真田幸村と真田丸・近畿の名城を歩く・江戸築城と伊豆石・図解近畿の城郭Ⅰ・Ⅱ・日本の籠城戦・黒田官兵衛・週刊日本の城101－121号・日本の城を復元する・八王子城跡Ⅸ・Ⅹ・青戸葛西城址調査報告Ⅱ・佐賀県立名護屋城博物館総合案内・倭城の研究第6号・史跡山名城跡1985・**徳川大坂城東六甲採石場Ⅵ岩ヶ平刻印群発掘調査報告書**・増山城跡Ⅵ・増山城跡Ⅲ・**特別史跡名古屋城跡本丸搦手馬出石垣修復工事発掘調査報告書**・**高岡城跡詳細調査報告書**・房州石の歴史を語る第5号・深谷城跡第5次・下金山城跡・増山城跡発掘調査報告・**特別史跡大野城跡整備事業**・仙台城跡4・**築城400年本丸御殿大広間復元完成記念出版定本熊本城**・松江城昭和43年・姫路白鷺城岩波写真文庫・史蹟美濃金山城跡昭和48年・彦根城とその附近昭和29年・大阪城昭和6年・

城郭絵葉書 鹿児島舊城現今第七高等学校造士館櫓門等幕末風景・茂尻矢土人城跡・名古屋城天主模型遊就館蔵・松本城天守閣・鷹揚園下乗橋と弘前城・京都二條離宮霞が城・函館の街1928年2色刷、末広町通り、函館十字街、地蔵町、停車場前の賑わい、大門通り、函館港、恵美須町銀座街の一部2種・躍進富山、今町通りの夜景、堤通りより西町を望む、総曲輪銀座の夜景、富山舊城跡等・

7・群馬郷土資料

引札高崎市四ッ谷町大阪屋梅蔵 絵柄軍艦・統合大将 39x52cm 石版 明治38年

8・資料

訂正増補信達2郡村誌 福島県信夫郡伊達郡村誌 中川英右著 明治33年 和装本首巻、第1巻―23巻計24冊

あとがき

1・初代群馬県令となったNHK大河ドラマ花燃ゆの小田村伊之助の書は手違いで入手できなかった。ちょうど、NHKでは小田村伊之助が楫取素彦に改名したところで、骨董市の目玉になったのに、残念でした。

2・同好会の受注と平和島骨董市が重なり、1か月を1週間で過ごした気分です。展示内容がオンラインワンであるため、横浜等各展示会の主催者からは出展のお誘いをいただきますが、対応しきれません。正直なところフラフラです。展示会の準備、搬入、撤収、整理、これを3月の平和島、群馬県庁、4月の土浦、5月の平和島、これからも6月の平和島、8月の骨董ジャンボリーと続きます。この間、古書同好会の目録作成、校正、受注、梱包、請求書、入金、発送と続きます。骨董市で1－5日不在、郵便は止めましたが、受注のFAXは帰ってきたら7mの紙の巻物になっていました。後、メールの受注分、葉書受注の整理、荷出し、一部写真撮影、メール送付まで終わりました。展示会場で大量に発注される方もあり、初日は昼食抜きで対応しました。また、海外からも初三郎鳥瞰図の原画や大量の中国地図絵葉書を御注文いただきました。大型木版色刷信濃国絵図、日清戦争双六、東置賜郡絵図帳、米沢上杉藩主書状と連日、引き合いの電話、FAX、メールに追われています。忙しくなると、企業人と個人、組織と個人の差を実感。組織はいいなど。人材の重要性と組織をフル回転させていた時代を懐かしく思っています。

3・多忙を極める一方で、5月の日本考古学協会も入札会や初孫の誕生会で参加できません。8月の中世城郭研究会には参加できるかもしれません。例年、骨董ジャンボリーと重なり欠席しています。期待して来場される顧客を失望させないためです。参加するとすれば、城郭報告書の重複分を展示できるかもしれません。希望があれば、陸軍省城絵図の展示も可能です。

4・同業者の市場では落札するたびに**城郭さん**と呼ばれ、骨董市会場では各店から、**城がある**よ、古地図だと、呼び止めていただきます。市場では今日は**城を持ってきた**からよろしくの声、ありがたい限りです。資料性のあるものは価格を厭いませんが、道楽の城グッズの方は商品価値で買っているのではなく、城だけで買っているのが悩みの種です。着物のいいものを持参いただいても価値がわからないので、業者さんを失望させることになります。今回の盃もずいぶん悩みました。九谷の作家ものといわれても、おそらく金沢城の細密画と考えても、このちいさなおちよこがこの価格かと。でも、結局、後で悩むよりいいかと、購入。病気としか言いようがありません。それでも、**かんざしの城、小柄の城、盃の城**と小生の3大、(3極小?)コレクションで展示ケースの収まりそうです。

5・台湾の博物館からの初三郎原画の発注には困りました。日本での受け渡しをお願いしましたが、東京の一流書店の対応を例に、国際スピード郵便成るもの存在や、海外からの送金方法等勉強させていただきました。現役時代は海外事業部に依頼で終わったのですが、起業とは事業とは大変なものです。これからも日本いな世界中の城郭資料が入手できるように、全国から紹介いただける城郭グッズや貴重な資料の入手に対応できるように頑張ります。東京の家が売れず、膨大なローンが頭痛の種です。

発行所

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109

群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

090-2722-4689(しろはく)

FAX027-315-4689(しろはく)

shirohaku@kym.biglobe.ne.jp

ミュージアムショップ

古地図と城 古書肆 城郭文庫

代表

富原道晴
